

令和5年度 第1回

「川越市幼児教育振興審議会」が開かれました

1 日時 令和5年7月25日（火） 10:00～12:00

2 場所 川越市教育委員会 東庁舎2階 教育委員会室

3 <出席委員>

山本正隆、鈴木悠太、小花菜美子、駒井仁美、吉田由子、大澤奈々

横山敦子、遠山知子、大西麗衣子、山村穂高

<事務局職員> 川越市教育委員会学校教育課 川越市教育委員会学校教育部教育指導課 こども未来部保育課

4 会議次第

(1) 開会

(2) 委嘱書交付

(3) あいさつ

(4) 自己紹介

(5) 正副会長選出

(6) 議事

①令和4年度 幼児教育振興策事業報告

②令和5年度 幼児教育振興策事業計画（案）

③令和5年度 幼保小連絡懇談会

④川越市ときも学びのプロセスについて

⑤川越市幼保小連携モデル指定研究について

(7) 川越市幼保小連携モデル指定校等研究委員委嘱書交付

(8) 閉会

5 審議内容及び意見の概要

(1) 令和4年度 幼児教育振興策事業報告

・全員異議なく原案どおり承認

(2) 令和5年度 幼児教育振興策事業計画（案）

・全員異議なく原案どおり承認

(3) 令和5年度 幼保小連絡懇談会

①連絡懇談会について

・全員異議なく原案どおり承認

②令和5～7年度の幼保小連絡懇談会の主題について

・研究のために保育をするわけではなく、日常の中から10の姿が見えてくることが大切であるとする。活動を並べたものが保育ではないということを、この場でも理解していただきたい。単元活動になることがねらいではなく、保育の目的があることを審議員としては押さえておきたい。懇談会で共有すべき内容は、日々の保育の中で、子供たちが遊びこむ姿をできるだけそのまま見ていただいて、その上で、遊びこむ姿を各年度の研究の視点で見た時に、どのような関連があったかを考えていくことがいいのではないかと。

・保育という総合的な活動の中で育まれるものであるということ意識しておくことが大切である。

・研究の視点については、川越市ときも学びのプロセスから連携して設定されていると

- 考えるが、それでよろしいか。研究の視点の解釈についてずれがないよう、趣旨説明を丁寧にすることが大切であると考え。説明の仕方について課題があると感じる。
- ・川越市ときも学びのプロセスからそのまま提示してもらうことがいいのではないか。保育は、様々な取組の中で結果として様々な力が育まれているものである。例えば、子供の課題を考える中で、様々なアプローチのアイデアが語り合えるような場であるといいのではないか。
 - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に○を付ける様式が効果的であると考え。結果としてこのような姿が見られるということが大切である。
 - ・言葉にすると同じような表現になってしまうが、捉え方や意識が大切である。
 - ・作成することを想定すると、抽出した活動から見取りを記載することになる。「○○を伸ばすための活動」となってしまうように考えることが大切である。
 - ・川越市ときも学びのプロセスを活用すると、保育などのアイデアにとってどんな効果があるのか。
 - ・保育の中で育まれるものは、広がりが多岐にわたる。どのような効果があるかについては、関わりのある項目への効果の度合いには濃さのような差はあると思う。
 - ・限定して考えることは確かに難しいと感じる。
 - ・本日のように議論している方は理解できるが、文章として記述した際にはどのように伝わるのかは難しいと感じる。子供としては、ただ遊んでいるという遊びの中にはいろいろなねらいを見出すことができると思うが。
 - ・皆さんの意見から、様式の「『健康な生活』に焦点を当て、各園、校で取り組みます」という表現についてどのような表現がよいか考える必要がある。
 - ・実践事例集をどのような目的で作成するかによって、様式の在り方が変わってくると思う。
 - ・実践例を手にするのは、参加する園・校の先生である。その場での協議に活用し、その後、園・校でのその後の取組に生かしてもらうものである。
 - ・「焦点を当て」の表現を変更するといいいのではないか。
 - ・主題に合わせた研究をするのではなく、様々な実践を主題の視点から分析して、幼保小の取組のよさを共有することが大切だと考える。
 - ・「健康な生活に視点を当てて実践例を通して研究します」という表記ではどうか。
 - ・研究のための活動ではなく、様々な活動を取り上げていただき、その活動の中から、学びのプロセスを見取っていくことが大切ではないか。
 - ・「1 遊びこむ姿を報告してください」「2 健康な生活との関わりを説明してください」という大まかな提示の仕方ではどうか。
 - ・「健康な生活に着目した実践例を紹介・研究します」または「健康な生活に結び付いた実践例を紹介・研究します」ではどうか。報告書もそれに合わせて記載する。
 - ・その案はバランスのとれた表現だと思う。実際には、様々な記述をされる園・校があると思うが、その場で情報を共有することが大切な点でもあると思う。
 - ・研究の柱についても少し検討が必要ではないか。
 - ・「2 実践の背景」という柱が、様式の解釈の幅が広がってしまうため、記載に迷うのではないか。
 - ・「2 実践の背景」ではなく「2 実践例」として大きな柱にして、記載内容に広がりをもたせる案ではどうか。
 - ・「2 実践の背景」「3 活動内容」の大枠を外して、より実践の中身を知ることができるような作成例を示す方がいいのではないか。
 - ・「活動内容」と大きく枠をとり、「ねらい」や「働きかけ」を交えて報告する形ではどうか。
 - ・よい案だと考える。「本実践例の成果と課題」という柱についてはどうか。実際取組を紹介する形の中で「課題」まで記載できるだろうか。

- ・実践例の成果と課題ではなく、担当した先生が感じたこと、考えたことなどを知りたいのではないかと。言葉としてどう記載するか迷うが「指導者から見た実践の課題」ではどうか。
- ・今年度の視点も入れた方がいいのではないかと。
- ・「指導者から見た実践の課題（健康な生活）」ではどうか。
- ・委員の案を原案に、事務局で調整をお願いしたい。
- ・子供の姿の記載について確認したい。
- ・活動内容の中で記載していただきたい。

③令和5年度 幼保小実践事例集について

- ・全員異議なく原案どおり承認

(4) 川越市ときも学びのプロセスについて

- ・だいぶ見やすくわかりやすくなったのではないかと考える。
- ・非常に明るくみやすいデザインになったと感じる。家庭版もよいと思うが、家庭版作成のアイデアは事務局か。
- ・教育長のアイデアである。
- ・表紙の「お兄さんお姉さん」の表記について多様性への配慮を考え「小学生」にする方がいいのではないかと。
- ・お兄さんお姉さんは年長者を意味しているのだとしたら、小学生に限定されないのではないかと。
- ・幼保小の接続という視点からは小学生の記載でもよいと考える。
- ・事務局にて修正し、進めてほしい。

(5) 川越市幼保小連携モデル指定研究

- ・川越市のカリキュラムは、モデルのようなものになると考えていいのか。
- ・承認いただいたということで、事務局に調整をお願いする。